

平成21年12月14日

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター

「民間実用化研究促進事業」の平成21年度一次募集における 採択課題の決定及び委託契約の締結について

ポイント

・今年度一次募集において新規課題を3件採択し、委託契約を締結

概要

農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター(生研センター)では、民間に実用化段階の研究開発を委託する事業の平成21年度一次募集において、下記のとおり3件の課題を採択し、委託契約を締結しました。

本事業は、農林水産研究基本計画(平成17年3月農林水産省農林水産技術会議決定)等に即し、農林水産業、食品産業、醸造業等の向上に資する画期的な技術の開発を促進することを目的に、財政投融资特別会計からの出資金を活用して実施されているものです。

本年度は、30課題の提案があり、その中から、外部の専門家からなる評価委員会における厳正な審査の結果を踏まえ、採択課題を決定しました。

【採択課題名(研究実施会社名)】

- * 堆肥・土壌を安価迅速に測定できる装置とシステムの開発(株式会社相馬光学)
- * 遺伝子組換え犬顆粒球コロニー刺激因子製剤の実用化(日生研株式会社)
- * おからの機能性食品化事業「マイクロ・ソイファイバー」(株式会社共立)

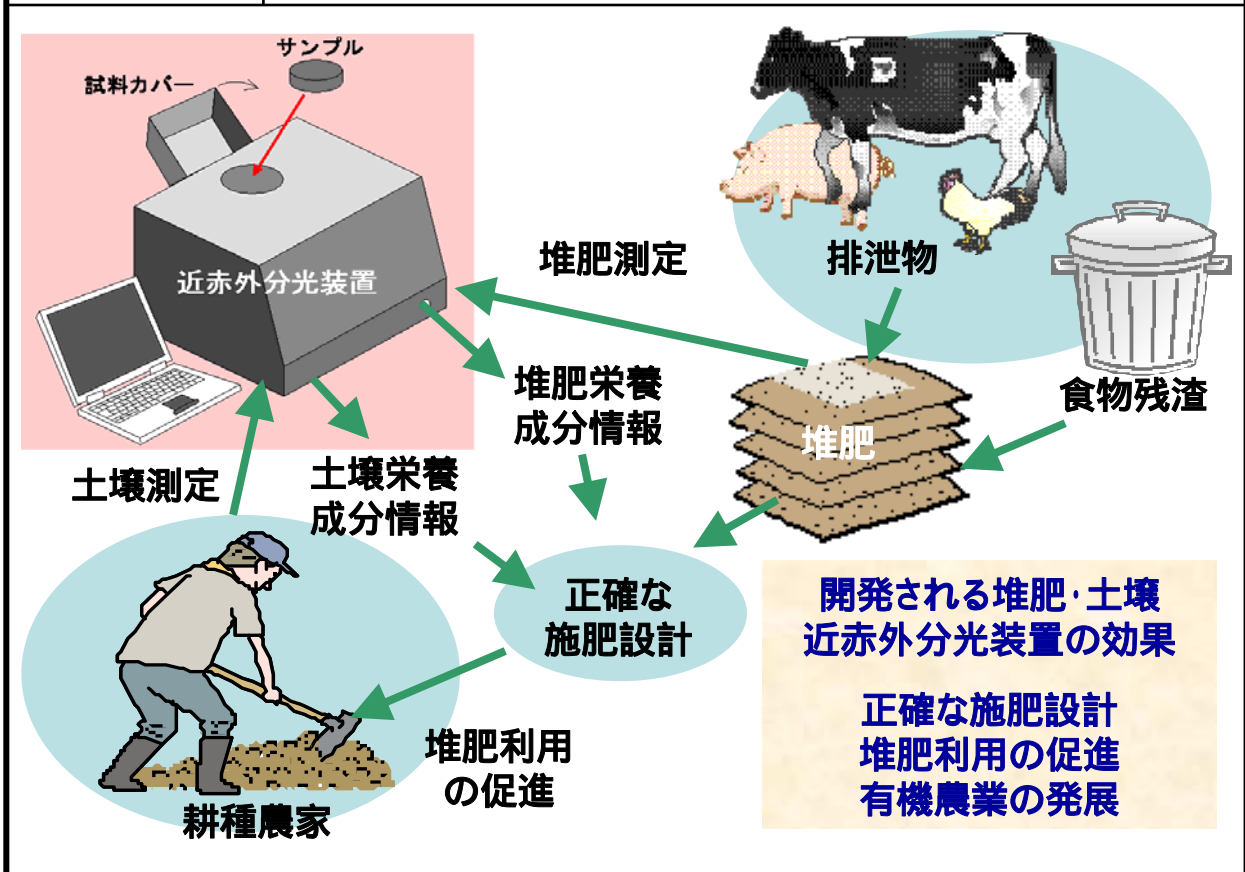
問い合わせ先など

農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター
事業担当者 新技術開発部 民間研究促進第1課(山本、今野)
TEL:03-3459-6565

この資料は、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブ、林政記者クラブ、水産庁記者クラブ、筑波研究学園都市記者会に配布しております。

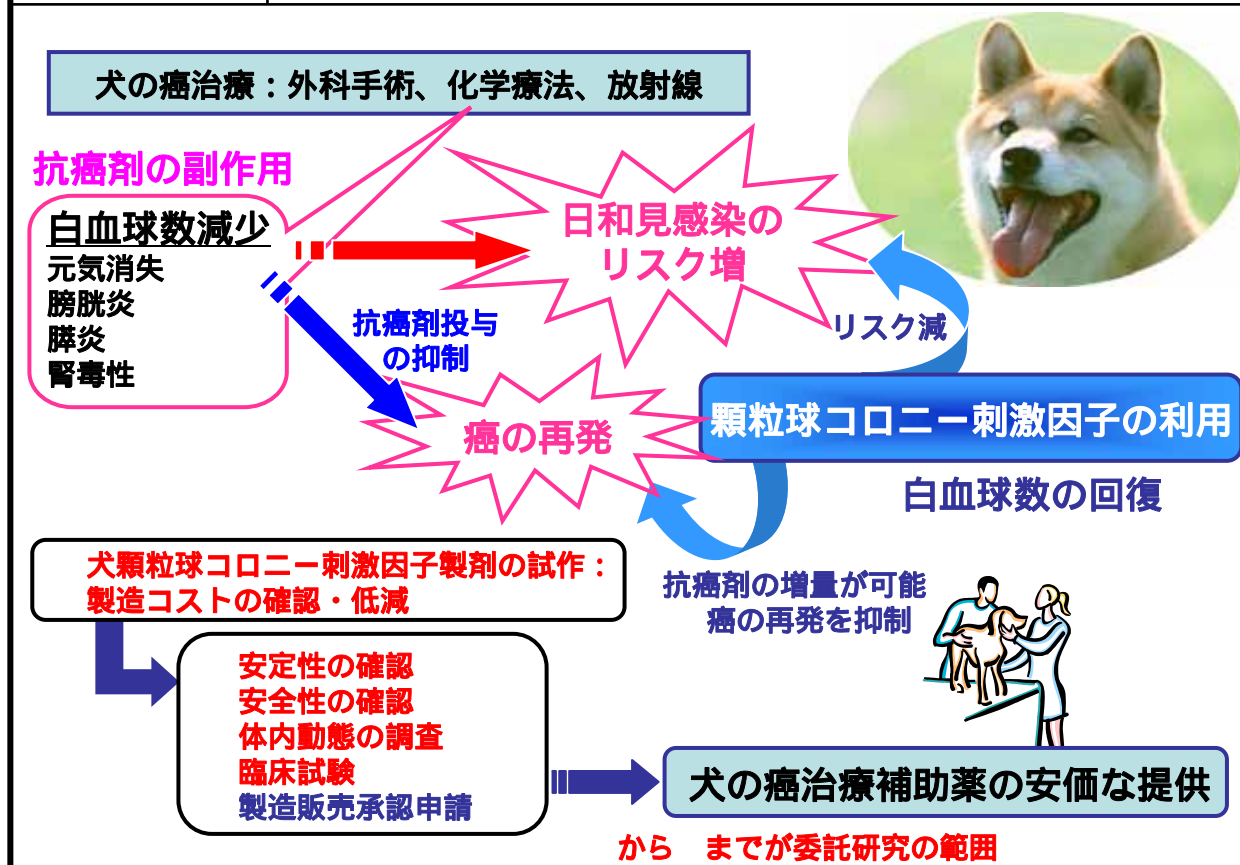
試験研究課題概要

会社名	株式会社相馬光学
課題名	堆肥・土壌を安価迅速に測定できる装置とシステムの開発
統括責任者	浦 信夫 (株式会社相馬光学 代表取締役)
研究期間	平成21年度～平成23年度
概要	本課題は、近赤外分光法により、可給態窒素を中心とする堆肥・土壌の成分を安価、迅速に把握する装置を開発するもの。本技術開発を通じ、堆肥・土壌の分析装置が試験研究機関や普及機関等に導入されることにより、農地の地力に合わせた堆肥の施肥設計が可能となり、堆肥利用の促進を通じた有機農業の発展が期待される。



試験研究課題概要

会社名	日生研株式会社
課題名	遺伝子組換え犬顆粒球コロニー刺激因子製剤の実用化
統括責任者	長井 伸也 (日生研株式会社 取締役)
研究期間	平成21年度～平成23年度
概要	本課題は、犬の抗癌剤治療における副作用を防止する効果を有する顆粒球コロニー刺激因子を、動物用医薬品として製造する技術を開発するとともに、安全性の確認等を行うもの。ペット関連産業の市場規模が拡大基調にあることから、本技術開発を通じ、動物用医薬品産業のさらなる発展が期待される。



サイトカイン（細胞から分泌され、特定の細胞に情報を伝達するタンパク質）の一種で、白血球の産出促進等の作用を有する。

試験研究課題概要

会社名	株式会社共立
課題名	おからの機能性食品化事業「マイクロ・ソイファイバー」
統括責任者	上野 賢美 (株式会社共立 代表取締役)
研究期間	平成21年度～平成23年度
概要	<p>本課題は、おからをパウダー状の粉末（マイクロ・ソイファイバー）にする技術を開発するとともに、当該粉末の安全性の検証等を行うことにより、大部分が飼肥料として利用されるか産業廃棄物として処分されているおからを、食品として有効利用しようとするもの。</p> <p>本技術開発を通じ、おからの小麦粉等の増量剤としての利用が促進され、食料自給率の向上、栄養価・機能性の高い商品の提供による国民の健康への貢献が期待される。</p>

